

令和5年度 厚生経済常任委員会 視察研修報告書

○ 視察日程

令和5年10月16日（月）～17日（火）

○ 視察参加者

平塚 悟（委員長）、丸山国一（副委員長）、岡部紀久雄、青柳好文
高野浩一、飯島孝也、相沢俊行、矢崎友規

○ 視察先及びテーマ

1. 長野県南箕輪村 「社会増と自然増による人口増加への取り組み」
2. 長野県上田市 「学童保育事業の運営について」
3. 長野県白馬村 「子育て支援政策～保育所の統合、学童保育事業の取り組み～」
4. 長野県白馬村 「オールシーズン観光への取り組み、インバウンド需要対策」



厚生経済常任委員会メンバー（上田市清明児童クラブ前にて）

1. 長野県南箕輪村「社会増と自然増による人口増加への取り組み」

(1) 視察目的

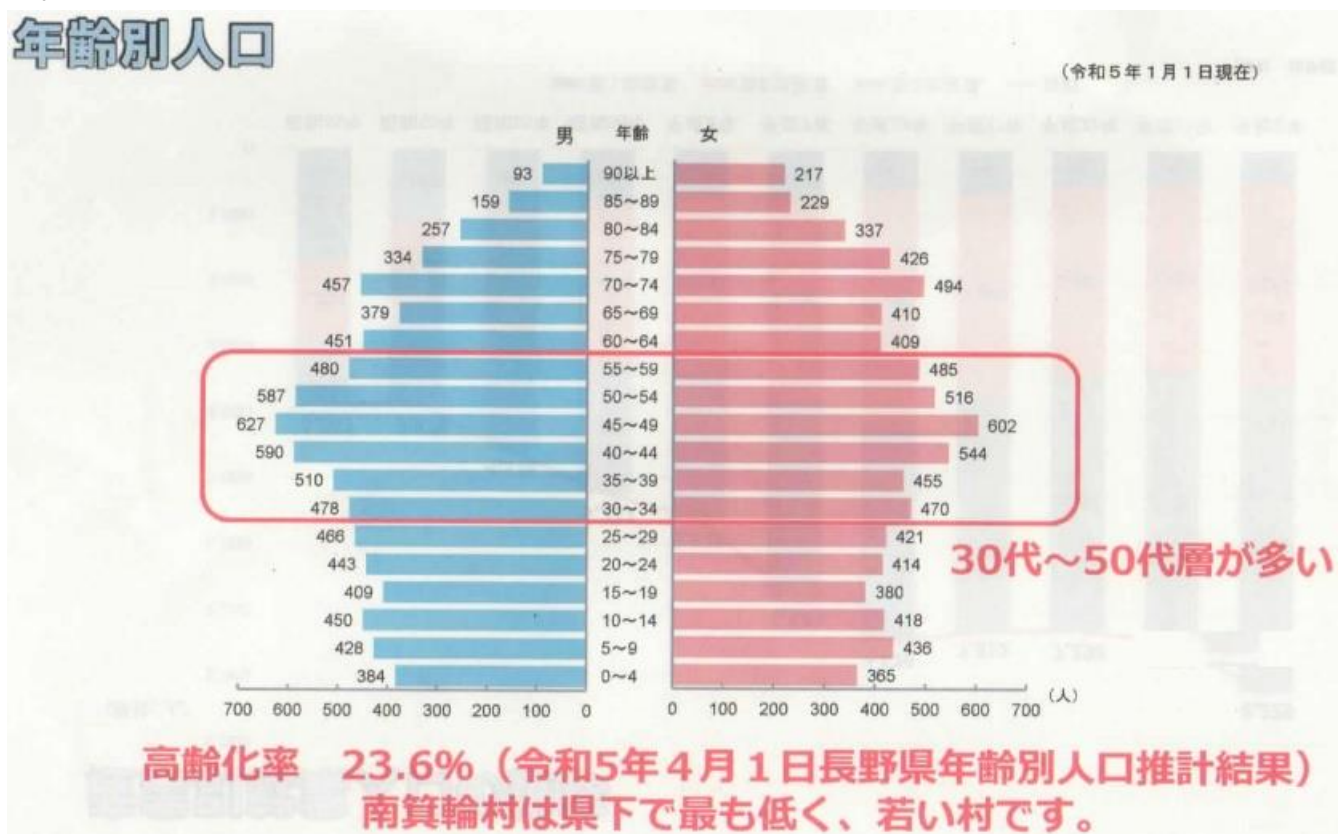
日本全国の多くの自治体が少子高齢化問題に直面している中、長野県南箕輪村では長年取り組んできた子育て支援の政策をはじめ産業面に至るまで様々な施策に取り組むことにより、村人口が自然増と社会増を達成し続けている。人口が増え続ける秘訣と、それに伴う行政の支援やインフラ整備等について幅広く調査・研究し、甲州市の人口減少問題への対策に取り組んで行くため。

(2) 視察訪問先

南箕輪村役場

(3) 研修内容

2025年に村制150周年を迎えるが、その間ほぼ右肩上がりの人口増加傾向、現在16,000人余りとなっている。そのうち73.3%が移住者で、現村長は、地域おこし協力隊による移住者、副村長も移住者である。社会増が続き、最近まで自然増も続いていた。現状でも自然減率は長野県77市町村の中で最低となっている。高齢化率も県下で一番低い23.6%である。



移住といっても県外が中心ではなく、隣接する市町村からが大半となっている。要因としては①子育てがしやすい②地価が安い③就業先が多様、などが上げられる。

- ① 早くから保育料の引き下げや子ども医療費給付の充実などに取り組んでいることから、子育てがしやすい場所という印象が定着し、さらなる充実も怠らずやっているの、そのイメージは崩れていない。
- ② 地価が安いのは、農振を県道沿いは指定しないなど宅地開発の誘導策があり、人口増加とバランスが取れて安定して土地の供給がされていることが背景にありそう。不動産事業者からの口コミで人口増のムーブメントは作られたと言われている。
- ③ 機械システムと電気システムを学科に持つ県立南信工科短期大学からの即戦力供給もあって精密機械などの製造業が盛んであり、中央道開通による運輸業、人口増に伴って数を増やす卸売・小売業などが数を増やしており、多様な就業先確保がされている。
また、上伊那地域で連携してUターンを促す取り組み、例えば帰省バスを仕立てて就職セミナーを企画したりしている。また、移住して就業や起業した人（40歳未満）を対象に奨学金返還の補助も行っている。

子育て支援策

その他の子育て支援策

不妊・不育症治療費助成
長野県の助成を除いた額の1/2を助成します。
不妊治療は上限5万円、不育治療は上限10万円です。

こども館
子育て教育支援相談室・放課後児童クラブを併設しています。

産後育児ヘルパー派遣事業
ヘルパーが家事援助・育児援助を行います。

たけのご園
親子通園や保育園との併行通園を通して発達支援を行います。

病児・病後児保育事業
公立保育園に通う子どもは無料で利用できます。

女性再就職トータルサポートセンター
再就職や仕事と家庭の両立などの相談に専門スタッフが応じます。

ファミリーサポートセンター
保育園の時間外などに子どもを預かります。
子ども1人につき実負担額は、400円～です。

使用済みおむつの保育園廃棄
使用済みおむつを保護者が持ち帰らず、保育園で廃棄します。

就学資金助成
経済的理由などにより就学が困難な場合に就学費を助成します。
同等の理由で入学準備金の貸付けも行います。

小学校体育専科教員の配置
令和5年度に村職員として2人採用しました。

放課後児童クラブ 19時まで利用可能です。

保育園・小中学校共通の連絡システム
令和5年度に欠席・遅刻連絡やお便りのデジタル配信ができるシステムを導入しました。

子どもの窓口一元化 南箕輪村版ネウボラを目指して、令和6年度から実施する予定です。

15

人口動態の推移 (人)



【転入・転出者数の推移】(人)



【出生・死亡者数の推移】(人)



→ 平成30年、令和元年、2年は、77市町村中、**自然増は南箕輪村のみです。**
令和3年、4年は、全ての市町村が自然減のなか、**南箕輪村は減少率が最低でした。**

今後の村政の課題としては、福祉の充実による扶助費が多いこと、また子育て施設など建物を充実してきたことによる改修費の増大などが挙げられ、これから如何にして改善していくか、ほかの政策課題も含めて組織横断的に取り組んでいくことが重要であるとの由。

意見交換の中で、村役場組織において女性の幹部職員が5割以上を占めていることから、子育て支援センター内に女性の再就職サポートセンターの開設や保育園・小中学校共通の連絡システムの導入などのきめ細やかな支援策を実施しており、多様な意見が反映されていると感じた。

2. 長野県上田市 「学童保育事業の運営について」

(1) 視察目的

当委員会の所管事務調査において、甲州市内の学童保育事業の現状は、地区公民館や各地の児童センター等の公共施設を活用し、1件を除いて公営により学童クラブが運営されている。学校施設の活用や学童保育事業への民間活力の導入について調査・研究し、今後、甲州市の学童保育において子ども達がより良い環境で過ごすことにより、子育て支援と子育ての支援を充実させるため。

(2) 視察訪問先

上田市役所、清明児童クラブ（清明小学校敷地内）

(3) 研修内容

長野県上田市への視察は大変有意義で示唆に富んだものであった。

上田市の放課後児童対策について、児童館・児童センター、放課後児童クラブの説明があった。小学校数25校、児童数7488人、児童館・児童センターは11施設、放課後児童クラブは32施設（分室を含む）とのことである。

歩みとして、平成18年3月6日に、市町村合併により新たに「上田市」が誕生し、それぞれの施設についても、地域で設置の経緯や運営方針も指定管理や直営にわかれており、施設の名称や利用料も異なっていたが、平成21年度に、再編・統一し、全施設が指定管理による運営を始めるに至った。

6. 施設の運営について

合併前は
会場であった。

全ての小学校区で児童クラブもしくは、学童保育所を設置しており、一部の小学校区で、児童館・児童センターが設置されています。
全施設を指定管理者制度により運営を行っており、指定管理者は次のとおりです。

<指定管理者>	指定管理期間	5年
★ 児童館・児童センター	● 上田市社会福祉協議会	
	● 労働者協同組合 ワークスコープ・センター事業団	
	● NPO武石子育て支援を考える会	
★ 児童クラブ	● 労働者協同組合 ワークスコープ・センター事業団	
★ 学童保育所	● 各学童保育所運営委員会	PTA校長自治会役員
保護者が立ち上げた。	● NPO武石子育て支援を考える会	

(公設民営が基本)

それぞれの施設の役割として、児童館・児童センターは、地域において児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした施設であり、開館時間は平日13時から18時、土曜日・学校休業日は9時から18時。児童クラブ、学童保育所は、保護者が仕事等で昼間家庭にいない留守家庭の児童に対し、放課後等に学校の余裕教室等を利用して適切な遊び、生活の場を与えて、健全な育成を図る事業として、平日は12時30分から19時、土曜日・学校休業日は8時から19時まで開所していると説明があった。

利用方法は、児童館・児童センターは基本自由来館で登録不要であり、小学生は帰宅してから、遊ぶために自由に来館し利用する（保護者のお迎えは不要）、下校途中利用は、登録制となり、保護者の就労により、学校から直接施設に来館したい場合は、事前申請により、学校からの直接来館する利用が可能（保護者のお迎えが必要）とのことである。児童クラブ・学童保育所は、登録制となり学校の下校時は直接来所し、保護者のお迎えで帰宅し、土曜日・長期休みの利用は、保護者の送迎が必要とのことであった。施設の運営について、全ての小学校区で児童クラブ、学童保育所を設置しており、一部の小学校区では、児童館、児童センターが設置されている、全施設指定管理者による運営を行っている。

利用料については、児童館・児童センターは無料。児童クラブは、月10日以上の利用で3000円、月に10日未満の利用で300円（1回につき）。学童保育所、月額6000円（定額）となっている。きょうだい利用、ひとり親家庭は利用料の軽減がある。

最後に「清明児童クラブ」を見学した。清明小学校の別棟空き教室を利用し、平成15年4月に開設。定員90人に対し登録児童数115人、（低学年登録割合57.7%）平日平均利用者数46人との事であった。

上田市では、児童クラブと学童保育所の運営については、教育委員会内の組織により事務事業が執り行われている。今回視察に訪れた清明児童クラブでは、校庭及び体育館の利用も小学校と連携する中で使用することが出来ていた。

児童館・児童センターの設置場所

設置場所について

上田地域にある児童館・児童センター			
施設名	設置場所	施設名	設置場所
緑が丘児童館	西小学校区	神川児童センター	神川小学校区
大星児童センター	北小学校区	神科児童センター	神科小学校区
朝日が丘児童館	城下小学校区	東塩田児童センター	東塩田小学校区
秋和児童センター	塩尻小学校区	川辺町児童センター	南小学校区
丸子地域にある児童館・児童センター		武石地域にある児童館・児童センター	
施設名	設置場所	施設名	設置場所
下丸子児童館	丸子中央小学校区	武石児童館	武石小学校区
真田地域にある児童館・児童センター			
施設名	設置場所		
真田児童館	本原小学校区		

児童クラブの設置場所

設置場所について

併設・・・小学校内に設置		隣接・・・小学校の敷地内に設置			
上田市にある児童クラブ					
クラブ名	設置場所	クラブ名	設置場所	クラブ名	設置場所
清明児童クラブ	併設	神川児童クラブ	併設	丸子中央児童クラブ	併設
東部児童クラブ	併設	豊殿児童クラブ	併設	西内児童クラブ	併設
// (分室)		東塩田児童クラブ	併設	丸子北児童クラブ	隣設
// (南分室)		中塩田児童クラブ	併設	塩川児童クラブ	併設
西部児童クラブ	併設	// (分室)		菅平児童クラブ	併設
塩尻児童クラブ	併設	塩田西児童クラブ	併設	長児童クラブ	隣設
川辺児童クラブ(北)	併設	浦里児童クラブ		傍陽児童クラブ	保育園併設
// (南)	併設	川西児童クラブ	隣接	本原児童クラブ	児童館併設



上田市本庁舎第2委員会室で説明を受ける様子



見学した「清明児童クラブ」の外観、学校施設内の旧教室を活用している。

3. 長野県白馬村 「子育て支援政策～保育所の統合、学童保育事業の取り組み～」

(1) 視察目的

多くの自治体が少子化問題に直面している中、甲州市の出生数も減少の一途をたどっている。このような状況にあっても、子ども達が楽しく過ごせる生活の場所、豊かな体験を通して大きく育つ場所としての保育所が必要とされている。当委員会では、所管事務調査で市内保育園への再編と学童保育事業の更なる充実について研究を続けている。

白馬村の0歳から就学前までの子ども達が過ごす保育所、子育て支援ルームについて、また、就学後の子ども達が利用する放課後児童クラブについて調査・研究し、安心して子育てができる甲州市の実現に取り組んでいくため。

(2) 視察訪問先

白馬村役場 説明者 子育て支援課

(3) 研修内容

① 保育所の再編について

白馬村の保育所の再編については、村が主体となって地域の実状に合わせ進めた。平成19年の公立保育所再編にあたって、計画立案から地域への説明、保育所の施設整備や建設する場所の検討などの内容を伺った。

本視察研修で確認した、上手く行った点や隘路だった点を研究し、今後の甲州市の保育所再編をより良い方向に進めていく。

1) 保育所の再編

公立保育所の施設の老朽化と出生数の減少を背景とし、平成19年～20年に掛けて3園有った保育所（北城地区2園、神城地区1園）を1園に統合し北城地区に建設した。

尚、私立の保育所1園（北城地区）が平成15年に開園しているが、本園については村が主導してはいない。

2) 再編後の支援

白馬村の人口分布の比率は北城地区の方が多いため、公立園1園、私立園1園ともに北城地区に建設された。そのため、開園当初は神城地区の園児に対して、村としてスクールバスを準備し送迎の対応をしていたが、10年経過した頃から利用す

る園児が少なくなり、現在は運行していない。

本市の公立保育所の立地場所は塩山地区、勝沼地区、大和地区と広範囲に分布しているため、再編統合の際には園の設置場所、スクールバスの運行も考慮しながら再編計画を立案する必要がある。

② 子育て支援ルームの運営について

白馬村は観光業に就業する保護者世代が多く、土日祝日が忙しい地域柄であり、子育て支援の一環で日曜日も開放している。また、同様の理由で休日保育の需要があり、保育園、幼稚園に通う子どもが利用している。

③ 放課後児童クラブ・放課後子ども教室について

村内に2校ある小学校単位ごとに公設公営で2カ所を開設している。夏休み等の長期休暇と土曜日は合同で開設している。

放課後子ども教室は令和3年度より1カ所で開設してきたが、保護者アンケートの結果を受けて来年度に向けて更に1カ所の開設に向けて検討中である。

(4) 課題

白馬村では、専門職である保育士が慢性的に不足しており、人材確保に苦労しているとの事であった。本市においても同様の課題を確認している。課題解決のためには、保育士の給与改善や若者への保育士の魅力のPR、教育機関との連携など、子育て機関が横断的に総合的な取り組みが必要であると考えます。

また、放課後学童保育事業については公設公営での運営であり、教育相談員（教職OB・OG）が欠員状態のため教育相談において不十分な面があること。より良いサービスを提供するために欠かせない児童クラブ指導員、子ども教室指導員などの専門職が不足している。

(5) 所見

白馬村の保育所再編計画に私立園は含まれておらず公立園のみの再編であったが、施設の老朽化と出生数の減少を認識し、現状にあった園数に統合したことは評価できるものであった。

本市の「公共施設等総合管理計画」では、総合管理計画期間内（30年）で廃止と言う途方もない長い期間で廃止する計画だが、施設の老朽化や出生数の現状を見れば、早々に再編が必要であると考えます。その際、甲州市の子育てと言う観点から、公立保育所だけの枠組みでは無く私立園も含めた再編計画が必要である。

甲州市の保育所が、大切な幼少期を過ごすに相応しい場所となるよう再編を進めて行くべきである。



白馬村役場にて担当課より説明を受け、意見交換する様子

4. 長野県白馬村 「オールシーズン観光への取り組み、インバウンド需要対策」

(1) 視察目的

長野県白馬村では、数年前より急増する外国人旅行者のインバウンド需要への対策、冬場以外の観光オフシーズンにも来村していただくための観光地経営計画を立てて、「世界水準のオールシーズン型マウンテンリゾート・HAKUBA の具現化」に向けて取り組んでいる。

甲州市は「豊かな自然と歴史と文化に彩られた果樹園交流のまち」をテーマに国内国外問わず多くの観光客にお越しいただくため観光政策に取り組んでいるところではあるが、観光のオンシーズンとオフシーズンで観光客の入込に差があること、また、インバウンド需要を伸ばすために世界水準の観光政策を目指していくために調査・研究を進める。

(2) 視察訪問先

白馬村役場 説明者 観光課
白馬村ジャンプ競技場

(3) 研修内容

①現地視察も行った白馬ジャンプ競技場について

言うまでもなく、25年前の1998年長野冬期オリンピックの遺産であります。正式名称は、ラージヒルが長野県白馬ジャンプ競技場、ノーマルヒルが白馬村ジャンプ競技場。ノーマルヒルは白馬村が指定管理者となっており、全施設を白馬村が管理・運営しています。

観光等によるリフト収入が年間約2000万円に対して、村の維持管理費が約1億円であり、毎年約8000万円の赤字を計上しているとの由。国や県からの運営費補助金を受けているとはいえ、人口約8500人の村の財政にとって決して小さな負担ではないと思われました。さらに言うと、白馬村にはジャンプ台だけでなく、アルペン会場、クロスカントリーの会場と長野五輪のレガシーが全部で3つあることも付記しておきます。

「観光地経営計画」の後期目標として「世界水準のオールシーズン型マウンテンリゾート・Hakuba の具現化」に向けて、目下白馬村は努力しています。

②インバウンド需要喚起について

- 1) 村の観光協会を母体に「観光局」設置し、平成17年度のプロモーション活動により、平成19年度からオーストラリアからの観光客が増加した実績がある。
- 2) 観光庁の持続可能な観光推進モデル事業に採択され、国の予算を獲得し財源の一部とする中で、外国人観光客からの要望が多かった夜間観光の足としての「Night Demand Taxi」事業の実証実験を行った。ジャンボタクシー

ー3 台を導入しての実験だったが、外国人の利用が高かったことは裏付けられた。今後は、住民の移動手段としても利活用を検討中との由。

③景観条例等について

景観条例は制定済みだが、日本の商文化を理解していない外国人による迷惑行為が地域住民の不満を呼んでいる側面もある。欧米では酒を買うのに年齢制限が厳格であり、外国人の場合はパスポートの所持も必要となるのに対して、我が国ではコンビニでも自販機でも自由にお酒が買えるためどこでもお酒が飲めてしまい、近隣の住民の不満を呼んでいるとの由。加えて花火の問題もある。根気よく掲示・チラシ等で異文化相互理解を深める方針とのこと。



現地視察に訪れた白馬村ジャンプ競技場

最後に、白馬村に設立され何人ものオリンピックを輩出した県立白馬高校ですが、県教委の分校化方針に村が異議を唱え、県教委との協議の結果 2016 年度から「国際観光科」を新設して全国生徒募集を可能とし、村内にある県立高校存続を図ったことは、白馬村の教育への情熱と観光政策が一体となった姿だと感服した。背景には、かつて村長の「0 歳から 18 歳までの子育ては、一貫して村が行うのだ」という理念が脈々と今も流れているものと拝察した。



白馬村役場前にて、白馬村議会議長の太田様と記念撮影
教育、産業、市民生活など多岐にわたり意見を交わし、有意義な視察研修となった。